

ATL™

Advanced Transmission Line

PMC の独自の技術であるベース・ローディング・テクノロジー ATL™ (Advanced Transmission Line)。この ATL™ は PMC サウンドの核となるテクノロジーとしてすべての PMC 製品に採用されています。

レスポンスの速い躍動感のある豊かな低域

非常に低い低域まで歪がなく高いレベルで再生

レベルの大小によって変わらないサウンド・イメージ

余分な倍音成分を除去することで高い解像度とステレオ・イメージを実現

ベース・ドライバーの背面から放射される不要な周波数帯域を様々な素材の吸音材等で最適な音響処理を施した「長いトンネル」で吸収し、非常に低い周波数帯域のみを通すことで前面のポートからベース・ドライバーと同相の音声を出力し、ポートをあたたかも第二のベース・ドライバーのように機能させ、またミッド・ロー帯域への不要な倍音成分を低減させる効果も備えています。

これにより、早いレスポンスで歪のない躍動的な低域と、中高域の高い分解能と解像度を実現し、ディテールの細かな鮮明なサウンドを提供します。また、音量レベルの大小にかかわらず周波数バランスを均一化できることで安定したサウンド・イメージを保ち、低い音量レベルでも高いクオリティのモニタリングが可能です。音量レベルの大小に関係なく、これほど高い解像度と音色バランスをもたらすベース・ローディング・テクノロジーは他にはありません。

「トランスミッション・ライン」方式のスピーカーの理論は 90 年以上前に発表されていました。その後、多くのエンジニア達が実現にむけて研究・開発を行ってきましたが、PMC 社だけがプロフェッショナル・モニター・スピーカーの分野で唯一製品化に成功しました。ATL™ (Advanced Transmission Line) は当初の「トランスミッション・ライン」理論を PMC がブラッシュアップした PMC 社のキー・テクノロジーです。

ATL™ の役割は、システム全体にサブウーファーを追加したかのようなローエンド特性を拡張することです。ATL™ はドライバー・ユニットのコーン紙の裏側で発生した音をエンクロージャーの外に出しているのですが、そのまま何もしない状態では逆相の音が出てしまい、位相干渉を起こして低域補強機能は成立しません。ATL™ から出される周波数帯域は、機種によって多少異なりますが、80 Hz 以下の低音域が出るように設計されています。

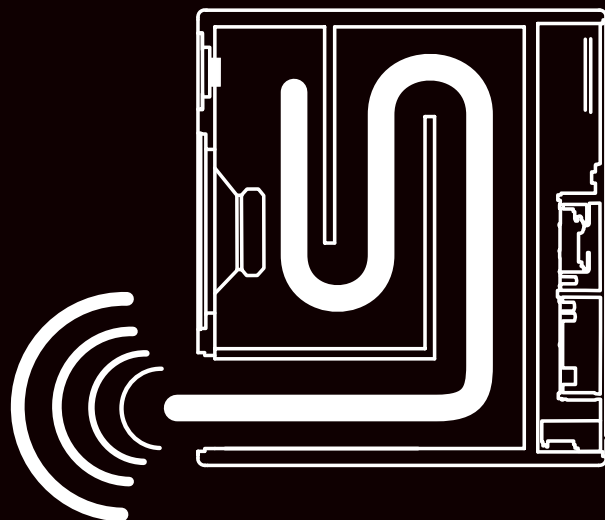
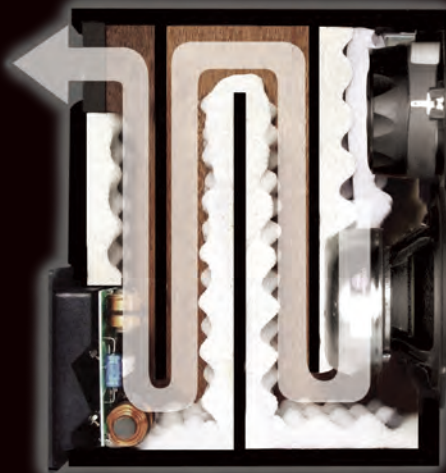
エンクロージャー内部は 80 Hz 以下の逆相成分と 80 Hz 以上の不要な周波数成分を吸収することができる PMC 独自の特殊な吸音材を施しています。

このような特殊な機構で ATL™ のポートからクリーンな正相の低音が出るようになっています。

管楽器を想像してください。管楽器は形状変化によって出したい音階を自由に出せます。

ATL™ は、それを応用したような構造です。

Oliver Thomas / Head of R&D, PMC

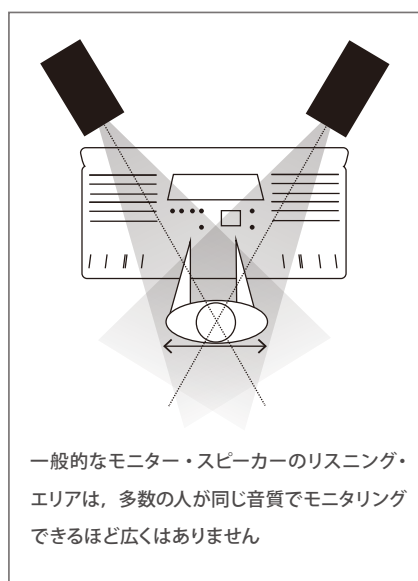
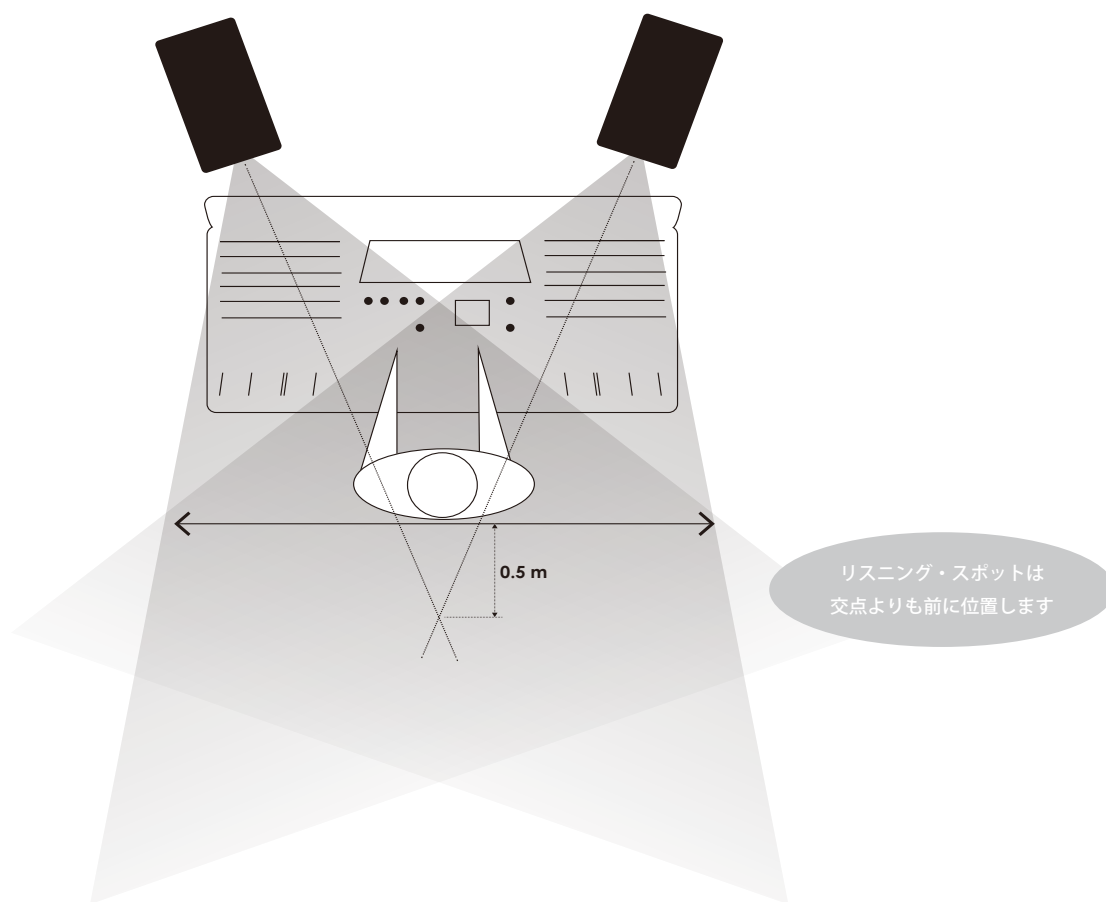


PMC®

All PMC Monitors provide wide listening area

すべての PMC モニターは広いリスニング・エリアを提供します

PMC[®]



PMCのモニター・スピーカーが提供するリスニング・エリアは一般的なモニター・スピーカーと比べ極めて広いエリアをカバーします。リスニング・スポットの前後左右に移動してもイメージや音質が大きく変わることがありません。

これは複数の人が同じ音質でモニタリングできることを意味し、アーティストやプロデューサーがエンジニアと同じ音質でモニタリングすることができ、楽曲や音声のイメージを共有することが可能です。また、サウンド・エンジニアの作業エリアが制限されることがなくなります。

すべての PMC モニター・スピーカーがこの広いリスニング・エリアを実現しており、これは PMC モニター・スピーカーの最大の特長の1つといえます。